

# 平成30年教育委員会第9回臨時会会議録

開会日時 平成30年10月25日 午前 10時00分

閉会日時 同 上 午前 11時04分

場 所 教育委員会室

出席委員 教育長 塩澤 雄一  
同職務代理者 塚本 亨  
委員 天宮 久嘉  
委員 日高 芳一  
委員 齋藤 初夫  
委員 大里 豊子

## 議場出席委員

・教育次長	駒井 亜子	・学校教育担当部長	杉立 敏也
・教育総務課長	鈴木 雄祐	・学校施設課長	若林 繁
・学校施設整備担当課長	杉谷 洋一	・学務課長	神長 康夫
・指導室長	和田 栄治	・統括指導主事	塩尻 浩
・地域教育課長	山崎 淳	・放課後支援課長	生井沢 良範
・生涯学習課長	加納 清幸	・生涯スポーツ課長	倉地 儀雄
・中央図書館長	鈴木 誠		

## 書 記

・教育企画係長 富澤 章文

開会宣言 教育長 塩澤 雄一 午前 10時00分 開会を宣する。

署名委員 教育長 塩澤 雄一 委員 塚本 亨 委員 天宮 久嘉  
以上の委員3名を指定する。

議事日程 別紙のとおり

**○教育長** おはようございます。それでは、出席委員が定足数に達しておりますので、平成30年教育委員会第9回臨時会を開会したいと思います。

本日の会議録の署名は、私に加え塚本委員と天宮委員にお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

それでは、議事に入ります。

本日は報告事項が9件になっています。

それでは、報告事項に入ります。報告事項1「平成30年度東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査の実施結果（速報値）について」お願ひいたします。

指導室長。

**○指導室長** 平成30年7月5日に実施いたしました東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果（速報値）が公表されましたので、報告させていただきます。

平成30年度の小学校5年生と中学校2年生の全員を対象として国語、社会、算数、数学、理科、外国語、これは中学校のみでございます、において学習指導要領に示されている目標や内容に基づいた事項と読み解く力に関する事項について調査をしております。

2ページにあります「5 各教科平均正答率」は、小学校・中学校の平均正答率の3カ年比較となっております。3ページから7ページにあります「小学校正答数分布」それから「中学校正答数分布」は、葛飾区の小・中学校の正答数分布と東京都の正答数分布を人数で25%ごとに上位からA層、B層、C層、D層として示した資料でございます。層ごとに示しているプラス、マイナスがございますが、そのポイントは昨年度との比較でございます。

さらに8ページの「東京都25%層に対する葛飾区の割合」は、昨年度と今年度の層ごとの分布について比較した資料でございます。

9ページ「分析」について説明をいたします。表・グラフなどを一緒に見ていただけたらと思います。小学校では全教科においてD層が25%を下回っており、個に応じた指導の成果があらわれております。また全教科においてA層が25%を上回っており、個に応じた指導の成果があらわれております。全ての教科で東京都の平均正答率を上回っている児童が50%を超えており、上位層における成果もあらわれてきております。

続きまして中学校です。国語においてはD層が減少しており、生徒の実態に応じた指導の成果があらわれております。また国語、理科、英語においてA層が増加しております。特に国語ではA層が5ポイント以上増加しております。これにつきましては、個に応じた指導及び「葛飾教師の授業スタンダード」の推進により下位層の児童の正答率が上がり、学力の定着が図れたと考えられます。小学校・中学校ともに全体として東京都の平均正答率よりは下回っておりますけれども、教科によっては東京都との差が縮まってきております。

一方、課題についてでございます。小学校ではD層が減少したことに伴いC層が全教科25%以上となっております。中学校では全教科でD層が25%以上となっており、依然として課題があります。引き続き「チャレンジ検定」を活用した指導の徹底、「葛飾教師の授業スタンダード」をより一層推進し基礎・基本の定着を図るよう指導を行ってまいります。

「今後の取組み」としましては、東京都からの結果の正式発表後に問題ごとの分析を行い、成果が上がっている学校の取組み事例を周知いたします。さらに授業参観を充実するとともに「葛飾教師の授業スタンダード」の推進をしております。

また、今回の結果をもとに各小・中学校で分析し、「授業改善推進プラン」をホームページに掲載することで学校・家庭・地域が一体となって児童・生徒の学力向上を図ってまいります。

以上でございます。

**○教育長** それではただいまの報告について何かご質問等ございますでしょうか。

塚本委員。

**○塚本委員** ただいまの指導室長のほうから縷々ご説明いただいて十分理解できますし、ここ数年来、学力が着実に上がってきているのは評価できるのですが、教科によっては今、ご提示のあった今後の取組みあるいは課題が黒印で提示されています。特にC層の扱い、中学におきましても、数学、理科、英語でもC層よりもB層の上昇を期待したいですし、中間値というよりもA層、B層への傾きを「葛飾教師の授業スタンダード」あるいは「チャレンジ検定」等々を充実させながら、と同時に、学校長が先頭に立って、研究発表指定校の制度を活用し、そういった部分で教師間の共通したものもこれからもまた推し進めていただきたいという感想を持ちました。

以上です。

**○教育長** そのほかいかがでしょうか。感想ということでもございましたら。

天宮委員。

**○天宮委員** 小学校のほうはすごくいい結果なのですがけれども、中学校がどうしても数学とか英語とかD層が30%以上というのはなかなか厳しいものがあるのではないかなと思っている。今年度は仕方ないですがけれども、できたら来年、再来年は少しでも減っていただけたらと思います。

**○教育長** この辺の中学校の対策というのはもうちょっと具体的に何か考えていますでしょうか。

指導室長。

**○指導室長** 校長に聞いてみるともう分析をしているところはかなり多くて、こちらの件では特に「チャレンジ検定」などの基礎・基本を徹底していくというようなことで教員に指示を出しているところが多くなっています。今後さらに分析を進めていって、課題、どこができない

かということ进行分析して、そこを厚く指導していくというようなことを言っている校長が非常に多くなっております。

以上でございます。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

日高委員。

○日高委員 6ページ、7ページの棒グラフを見ていただくと状況が実によくわかります。要するに双曲線的になっているのか、山型になっているのか、左側がぐっと高くなっているのか、右側が逆に高くなっているのか。左が高くなるということはD層が非常にふえている、多いということなのですね。D、C層が多いということですから、できることなら右のほうに持っていきたい。そういう表というのは、例えば中学でも、5ページの国語を見ていただくと、どちらかというともA、Bのほうが多くなってきているような感じがいたします。図としては右のほうで曲線が高くなっていることになりまますから、こういうほうが理想的だろうと思います。

こういう図であらわして見ると低いのと高いのが実によくわかりますので、これをもっと現実のものとして視点をここに絞り込んで、どうしたら上げられるのかというのを、もう一度焦点化してチャレンジなどの取組みを学校が集中してやっていただければありがたいと思います。

これだけ図でよくわかるということですから、一瞬にしてわかるわけですよ。数値を見るなどというのは、その次の話のように思うのです。ぜひそのあたりを学校にも認識いただくようにご指導いただければありがたいと思います。

以上です。

○教育長 齋藤委員。

○齋藤委員 この学力テスト、これは7月5日にやったということなのですが、学力テストの中身というのは、1年生で学んだことの内容を理解しているかどうかというテスト内容ということでしょうか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 そのとおりでございます。1年生の範囲を2年生になったところでやるということでございます。

○齋藤委員 中学校のところがなかなか厳しいという状況が見てとれて、小学校が結構頑張っているのです。私が見た取組みの中で、小学校の中でよかったなと思った取組みなのですが、中学校がそれと同じことが言えるのかどうかかわからないのですけれども、学年が上がった4月、5月、6月の朝の時間を使って、「東京ベーシック・ドリル」の勉強を全学年のものをその3カ月間でしっかりやるという取組みをしている学校がありまして、それをどこかの時間で、それは小学校ですから朝の時間だったと思うのですけれども、それをやっていた。そのと

ころの学校を見にいったわけです。それは、その学校の学力テストの結果がよかったから、何をやって効果があったのかを聞きにいったのですが、そういう取組みをしてきましたと言っていました。ですから、中学校が同じようにできるのかどうかかわからないのですが、そうした7月に向けての取組みをきちっとできたらよいと思います。ここに「チャレンジ検定」と書いてありますが、「チャレンジ検定」は「チャレンジ検定」で学力テストの結果に直接的に結びつくものではないと思うのですね。やはりそうしたベーシック・ドリルをちゃんとやるかやらないか、振り返り学習とか予習とかあっても、まさに3カ月間をそのために充てるということの取組みが小学校でよかったのではないかなと感じましたので、同じかどうかわかりませんが、いいことは取り入れたほうがいいのではないかなと思いましたので、感想としてお話ししておきたいと思います。

○教育長 指導室長。

○指導室長 おっしゃるとおりだと思います。最初に、学年の初めにベーシック・ドリルでどれぐらいできるかというのをやりまして、できないところを中心に補うように朝の学習を行う。それで終わってしまわないで、再度テストをして、どれぐらい上がったか、学力がついたかどうかをはかっている学校がありまして、今、そういう情報を集めているところでございます。そのいい取組みをして結果が上がったところについての周知をして広めていきたいと考えております。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

塚本委員。

○塚本委員 9ページにございます「今後の取組み」で私、伺うのを忘れてしまったのですが、2行目に「チャレンジ検定」の成果が上がっている学校の取組事例を周知するという事なのですが、具体的に実績を上げられた学校の情報の共有というのは何かノウハウがあるのであれば、研究発表指定校ですとか、そういった機会を活用して発表してうねりをつくっていただきたいのが1点。あるいは、具体的に成果が上がった学校が指導室で把握できているのであれば、こんな結果で学力が上がったのですよというのを何らかの機会に発信していただくノウハウがあったらお知らせ願いたいと思うのです。情報の扱いということで。

○教育長 指導室長。

○指導室長 この速報値につきましても学校のほうにおろしていきますので、その際にまずは触れていこうと思います。それから「チャレンジ検定」とかそういう取組みの際に伝えたり、いいものにつきましては指導室訪問のときには持って行って周知してよく説明をするというようなこと、いろいろな機会を見て周知していきたいと思っております。

○教育長 よろしくお願ひします。

そのほかいかがですか。

大里委員。

○大里委員 中学校のほうなのですけれども、東京都の平均正答率との差で30年度の数学とそれから英語はここ3カ年の差が非常に大きいなと感じました。英語に関しましては、私、昨年度に中学生の英語のスピーチと英語劇のコンテストを見せていただいたり、海外派遣も行っておりますけども、非常に上位層と下位層の個人差が大きいのかなと感じるところもあります。全体的な底上げといたしますか、中学2年の7月にテストしていますので、1年生のときの勉強が身につけてない生徒の引き上げが課題かなと感じました。

○教育長 その辺の課題をよろしくということですね。よろしいですか。

そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは報告事項1を終わります。

続きまして報告事項2「平成30年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の実施結果（速報値）について」をお願いします。

指導室長。

○指導室長 平成30年6月に実施いたしました東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の実施結果の速報値について報告いたします。

本調査は、小学校1年生から中学校3年生までの児童・生徒を対象としまして体力・運動能力調査と生活・運動習慣等調査を行っております。また各学校の取組みに対する質問紙調査も実施しております。

今回の速報値が発表されましたのは、体力・運動能力調査についてでございます。体力・運動能力につきましては、まず全体としまして体力合計点の結果を申し上げます。別紙をごらんいただけたらと思います。表の一番右側にあるのが体力合計点となります。

満点は小学校が80点、中学校が90点でございます。網かけ部分は東京都の平均を上回った項目でございます。小学校では男女ともに全ての学年で都の平均を上回りました。中学校では中1の男子が都の平均を上回ったという結果でございます。また、体力・運動能力の種目別平均につきましては、握力、上体起こし、長座体前屈、20メートルシャトルラン、立ち幅とびでは半数以上の学年が東京都の平均を上回りました。

課題といたしましては、中学生の持久走及び20メートルシャトルランにつきましては東京都の平均を上回っている学年が少ないということが挙げられます。本区におきましては現在「かつしかっ子チャレンジ（体力）」の取組みを推進しておりまして、小学校では縄とびや持久走それから20メートルシャトルランに取り組むことで持久力を高めております。また、投力を高めるために休み時間を有効に活用し投げる運動を行う機会をふやしておりまして、こちらにつきましては少しずつ成果があらわれたと考えております。また、中学校では保健体育の授業の中で補強運動として体幹を鍛える運動を設定して基礎的な体力を身につけることを目標として取

り組んでおります。

今後といたしましては、児童・生徒が日常的に運動に取り組めるようにより一層「かつしかっ子チャレンジ（体力）」の取組みを推進してまいりたいと思っております。

また、教員の実技研修会を通して指導力の向上を図るとともに運動量を確保した授業改善に今後も取り組んでまいりたいと思っております。

以上でございます。

○**教育長** それでは、ただいまの報告について何かご質問等ございますでしょうか。

塚本委員。

○**塚本委員** 今、指導室長からご説明いただきました。総体的に上がっていますが、中学校でも若干問題がある生徒の存在があり、中2、中3の男女とも若干低いですね。これは今後の課題であろうと思うのです。と申しますのは、知・徳・体と申しまししょうか、学力と体力と相関関係、ひいては体育を通しての生活の中の規律、いわゆるマナーですか、そういったもの全て相関関係があると思いますので、学力ももちろん上がってほしいのですが、これから人生100年時代を迎えるわけですから、基礎的な体力と同時に、その体力を培う中での規律ある生活、いずれも測定の結果の背景にもあろうと思いますので、引き続きのご指導をぜひお願いしたいと思います。感想です。

○**教育長** いかがでしょうか。

日高委員。

○**日高委員** 私も感想を述べたいと思います。こうやって数値の速報値を見ますと、一覧になって一目瞭然にわかるわけでありまして大変に嬉しいなと思います。網かけは大変にふえている。これを見てもおわかりのように、それはうちの子どもたちは優れていますよということですから大変にありがたいなと思います。こういう部分をふやしていければ本当にいいのだなと思いますし、各学校の努力もさることながら、こういうことの一面で捉えることができるのではないかなと思います。そこで、これまでも問題になってきた投げる力がどうだとか、もっと力をつけないといけないのではないかなと言われておりましたけれども、投げる力は小学校の高学年から中学生の男子にかけては全部低いのです。平均にいかないということだと思います。同時に中学の女子のほうも全て低い、平均に到達しないということですから、課題としてどうしたらこれを伸ばすことができるかというのを具体的に提案いただけたらありがたいなと思います。

それからさらに、50メートル走が、1年生から6年生まで小学生全部低いのですよね。中学なんかは頑張っているのもあるのですけれども、小学校だって女子のほうは頑張っているのですよ。男子のほうがちよっと低いな。それから低いので申し上げると、持久走の中学男子・女子ともに秒数が高くなっているというか、ちよっと努力が足りないのかな。このあたりを課題

と今後は捉えていただくともっと伸びていくのではないかな。中学男子の1、2、3年生の長座体前屈、柔軟性の部分、それから反復横とび、瞬発力、このあたりは低いとなっていますから、このあたりを一つの課題としてやっていけばもっともっと網かけの部分がふえてくるのではないかな。これは期待できる部分ですので、ぜひそのあたりを具体的に指摘して、それをどう高めていくかというご指導をいただくとありがたいなという感想を申し上げたいと思います。

以上です。

○**教育長** よろしいですか。高めてほしいと。

齋藤委員。

○**齋藤委員** このデータから見えるのは結果ですから、毎回言って恐縮ですけども、ボール投げのできる空間が葛飾区にはないということが一番課題だと私は思います。それは公園においてできるようにしてあげるか。公園のほうの関係に言うと、学校の中でできないのですかとと言われるし、縦割りの中であっちだこっちだと言わないで、公園のほうもそうだし、学校の中でもそうだし、ボール投げのできる環境をつくっていないということが最大の課題であって、行政なり教育委員会なり、ボールを投げて遊べるような環境をつくっていないというのが一番いけないところではないかなと私は思っています。低学年のほうは最近よくなったのは、公園で柔らかいボール投げていいよって、この間もありましたし、そういうのは大体できているのですけれども、小学校高学年から中学校になったら、軟式野球のボールを投げたりキャッチボールをしたり、そういう場所はないのですよね。ですから、そういうものを区長部局も教育委員会も含めて、このデータをもとに、どうしたらいいのかという解決策を、そういう環境を整えていくにはどうしたらいいかということをしっかり検討して、それなりの解答を見つけていくことが一番今、大事なことなのじゃないかなと私は思います。

○**教育長** これは事務局の問題でございますので、公園課とかに働きかけて、このデータをもとに取り組んでいきたいと思えます。

天宮委員。

○**天宮委員** 網かけじゃない部分を見ていても、基本的にはそれほどの大差はないわけじゃないですか。東京都にある程度体力は近いのかなって思うのですけれども、そもそも東京都の体力というのはどうなのでしょう。

○**教育長** 指導室長。

○**指導室長** 東京都の体力はすごく課題がございまして、5年ぐらい前までは都道府県別では一番下のほうにございました。しかしながら東京都も最近上がってきています。やっと最下位を脱出しましたところなものですから、葛飾区も上がっているのと同様に上がっていますので、上がっているものをさらに追い越して上にいくというのは少し難しいところもあるという状況でございます。



○教育長 そうなのですね。

塚本委員。

○塚本委員 今回の指導室長の、東京都が最下位を脱却し始めたということになりますと、資料は結構なのですが、指導室長のご感想で、特筆すべき都道府県の体力に対する取り組み方はどうなのか。というのは、それを私どもは一つの範として葛飾区の目標を掲げていくといいかなと感想を持ちました。具体的にどこの県がどうだというのではなく、都道府県での乖離現象はどこにあったのかご感想をお持ちだったらお聞かせ願いたいと思うのです。

○教育長 指導室長。

○指導室長 具体的な県は把握をしてございませんけれども、よく言われているのは、学校までの距離が遠くてよく歩いているような環境だと体力があるかというところではないと。やはり運動とか体力に対する施策をきちんとやっている県が伸びているということで、これも学力と同じで施策がしっかりしているところが伸びるのだ、高いのだとよく言われております。具体的な県はわからないのですが、そのように言われておりますので、その対策といいますか施策をしっかりとやることだと思います。この葛飾区も施策はやっているのです、それで伸びてきていると認識はしています。

以上です。

○塚本委員 ありがとうございます。

○教育長 全国データというのはないのですかね。

○指導室長 今のところデータは余り入っていないのですが、過去のものであればどこか調べれば出てくると思います。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

大里委員。

○大里委員 今、各委員の皆さんにおっしゃっていただきましたので、その中で中学生にしましては、例えば運動部でない生徒というのはどうしても日ごろから運動する機会がぐっと減るのかなと思います。今の子どもたちは結構サッカーですとか野球ですとかバスケットボールとか水泳ですとか、小さいうちから習っている子もいると思うのです。そういう子たちは習っているものに特化した能力が上がっていくのかなと思います。やはりやっている子とやっていない子では個人差が大きいのかなと思いましたので、小さいころからの運動習慣といいますか、そういうところは家庭に働きかけるといいのかなと思いました。今、室長のお話では小・中学校で施策をしっかりとやっている都道府県が伸びているということなので、そのあたりの関係がどうなのかなと思いました。

○教育長 指導室長。

○指導室長 家庭へ働きかけることも含めて策になるかと思います。

○大里委員 そこも入っているのですね。

○指導室長 多分そうだと思います。当然、食習慣とかそういうことも入ってくるかと思うので、そのあたりも家庭、地域と連携しながらやっていくことは大切だと思っています。

○教育長 よろしいですか。それでは報告事項2を終わります。

続きまして報告事項3「平成30年度葛飾スタンダードに関する意識調査(第1回)の実施結果について」をお願いします。

指導室長。

○指導室長 「平成30年度葛飾スタンダードに関する意識調査(第1回)の実施結果について」報告いたします。

「調査の概要」についてでございますが、目的は「葛飾教師の授業スタンダード」及び「かつしかっ子学習スタイル」の成果を分析し、葛飾スタンダードの取組みの推進を図るとともに今後の教育施策につなげるとしております。

「調査の対象」は、「葛飾教師の授業スタンダード」につきましては区立小中学校の全教員を対象としております。「かつしかっ子学習スタイル」につきましては、区立小中学校の全児童・生徒を対象として実施いたしました。「調査実施期間」は30年9月10日から14日まででございます。「調査内容」は、「葛飾教師の授業スタンダード」につきましては四つの設問があり、4択方式で行いました。「かつしかっ子学習スタイル」につきましては10問を設定してございまして、2択方式で行いました。

「調査結果」についてでございますけれども、まず「葛飾教師の授業スタンダード」につきまして、別紙1と2をあわせてごらんいただけたらと思っております。小中学校ともに全項目において平均値が3.5を超えております。また、小学校の設問3「まとめをしていますか」の項目以外は平成29年度の第1回の調査結果と同等または上回っているという結果になってございます。特に中学校におきましては全ての項目で上回っており、取組みの成果があらわれてきております。学校間及び中学校の教科間で「葛飾教師の授業スタンダード」の取組みの差が見られることが課題かと思われま。

次に「かつしかっ子学習スタイル」についてでございます。別紙3をあわせてごらんいただきたいと思っております。全体的に肯定的な回答が80%を超えている項目が多く、取組みの成果があらわれております。特に授業開始・終了時のあいさつや丁寧にノートに書く項目では全学年において90%前後の数字となっております。

「授業で分からないことを聞く」、それから「家庭学習で宿題やテストを見直す」などの数値が低く、理解が不十分な学習に対し、理解をしようとする意識が低いことが考えられます。

最後に「今後の取組み」でございます。全体を通じましては、「かつしかっ子」宣言及び「葛飾スタンダード」の取組みの成果があらわれてきておりますけれども、数値の低い項目につい

ては、各学校において分析をして、取組みを充実させるようにいたします。学校間及び中学校の教科間における取組みの差がなくなるよう、学校の状況に応じて指導・助言を行ってまいります。教員が個に応じたきめ細やかな指導をさらに推進していくとともに、児童・生徒が主体的に学習に取り組むような授業改善を図っていくように、学校訪問の機会を活用して指導・助言を行います。

第2回の意識調査につきましては、平成31年1月に実施する予定でございます。そこで改善の進捗状況を把握してまいります。

以上でございます。

**○教育長** それでは、ただいまの報告について何かご質問等ございますでしょうか。

塚本委員。

**○塚本委員** ただいまの指導室長からのご説明で、いわゆる理解力の問題あるいは学習意欲が若干低いというご報告をいただきました。基礎的な学力、それが経年的につながってまいりますので、その辺が1点と、学校間の格差が見られますとご報告いただいたのですが、先ほどの設問と一緒なのですが、学校間格差を指導室で把握して、いいものはこういったノウハウを使ってくださいという何か発信するような方策があるのか。そして、学校ではそれぞれ学校長としての方針があると思いますので、自分の学校の置かれた意識がこうだとは言いつらいのでしょうけども、やはり指導室のほうで把握しながら、何らかの機会に取り組んで成果が上がった分はノウハウとして大事ですよというのを方策として今後お使いになる予定があるのであれば、こういう機会と捉えて発信したいのだというのがあれば、ちょっと教えていただきたいのです。

**○教育長** 改善策ですね。指導室長。

**○指導室長** このグラフで学校間で差があるということはわかるかと思うのですが、既にこの低いところには聞き取りを行いまして、同時に電話ですけれども指導をさせていただきました。低い学校、特に教師のスタンダードのほうについては、小学校ですと十数校聞いてみたのですが、傾向としましては2通りありまして、管理職が徹底するように指示を出した、その結果、教員の意識が高まったために、完璧でないとAではなくてBというようなものにしたという学校がありました。昨年度よりやっているのだけど、教員が自分でつける評価が厳しくなったようだということで、低下はしていないというようなことが一つ。それから主体的な活動については若干まだ上がっていないところがあるというのは、3校ほどありました。落ち着かないところにつきましては、落ち着かせて、主体的というよりはしっかりやるように取り組んでいますので、それができたら主体的な活動もふやしていけると。意識が低いというわけではなく、現状頑張っているということでございます。今後とも機を捉えて指導していきたいと思っています。

以上でございます。

○教育長 塚本委員。

○塚本委員 学校間格差という部分で、今、指導室長が明確にお答えいただいたので、逐一気になった部分はすぐに学校訪問なり指導をしていただく。その中でも向学心に燃えている子どもたちが巻き込まれてしまってというのを、私、ちょっと懸念したのですね。クラス環境が落ち着きという点では当然反映してこようと思うので、大変だと思うのですが、引き続き指導室のほうでもご指導をお願いしたいというお願いでございます。お答えは結構です。よろしくお願いいたします。

○教育長 齋藤委員。

○齋藤委員 今の、学校ごとに捉えた方が違うという話でいくと、私も見ていて、「かならずやり直していますか」とか、「かならず」と書いてあるのですね。毎日ほとんどやってもたまにやらなかったときがあったら、「かならず」だから「いいえ」に丸をつけるなど私は思ったのです。だから学校によって捉え方でこれは、それにしても高いなと思って。たまにやらなかったら、私だったら「いいえ」にするのだけど、必ずというのは100%ですから、この質問の仕方が難しいなということも思ったので、その辺も考えてやらないと結構現場は、その捉え方によって数値が違ってくるのではないかなということを感じたという感想だけにそれはします。

それからもう1点です。中学校のほうに行くと、大体数値が悪いのは予習とか振り返り学習とか、そこどころが余りよくないなという感じを受けるのです、全体を見て。学年が上がるごとにそれはそうになっていって、さらにいくということですから。今、一生懸命やろうとしている放課後の図書館で勉強するとか、ことしからそれを強化するということですから、そのことの実績は、みんなで学校の帰りに勉強したりして振り返り学習等が一生懸命できるような環境をつくっていかうとしていますので、その成果をこれから期待していきたいなと思っています。

○教育長 指導室長。

○指導室長 今、おっしゃられたように、「かならず」というようなこととか、教員の捉え方によって結構差が出てしまうということが今回わかりましたので、そのあたりについては検討させていただきたいと思っております。

それから、先ほども少し触れさせていただきましたけれども、宿題をやるとか、テストが返されたものを必ずやり直すというところが低いのですね。そのことにつきましては、教師のスタンダードとそれから子どもたちの学習スタイルの定着がより上がっていく必要がございますので、そのあたりは学校のほうに指導を厚くしていきたいと考えております。

○教育長 その質問は前もあつたような気がするのです。この言葉だとこれしか答えられない。ぜひ検討をお願いしたいと思います。

そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは報告事項3を終わります。

続きまして報告事項4「平成30年度イングリッシュ・キャンプの実施結果について」お願いします。

指導室長。

○指導室長 「平成30年度イングリッシュ・キャンプの実施結果について」説明をいたします。

目的は「英語によるコミュニケーション能力」の育成と、「他者と協調し課題を解決する能力」の育成を図ることとして実施いたしております。

本区で参加を希望した中学校1、2年生のうち、校長先生からの推薦を受け、教育委員会事務局において審査を行い決定した1年生が24名、2年生が24名、合計48名が参加をいたしました。今年度は日光林間学園の工事がございましたので、山梨県にあります荒川区の清里青少年自然の家で実施をいたしました。

昨年同様、宿泊の前に、英語だけの活動に慣れるためのプレキャンプ、事前学習でございますが、これを2回行いました。それから、場所が清里に変わったことで牧場でのアイスクリームづくりとか牛の乳搾り体験を英語の説明を聞いて行うというプログラムを取り入れました。初日の夜に子どもたちが書いた英語の日記の中では、引率教員やALTと英語を通して活動できた満足感が多数記録されておまして、大変有意義な活動になったと考えております。

それから夕食後にはナイトレクリエーションを行いました。学校の引率教員2名にこのナイトレクリエーションを主に担当してもらいましたが、グループ対抗ダンス大会など盛り上がるプログラムを考案してくれましてキャンプを大いに盛り上げました。各グループが団結をするきっかけをつくっていただきました。2日目のグループ発表では各グループがALTに英語で話しかけたり、発表方法を工夫したりと、生徒はもちろん、引率教員の質の向上も感じられました。

ポストキャンプ、事後学習については記載のとおりでございます。

引率者につきましては、団長としては水元中学校の遠藤校長先生、学識経験者には昨年度に引き続き聖学院大学の東仁美教授にご協力をいただきました。

「成果と課題」でございますけれども、まず「成果」は、参加者それから参加者の保護者からのアンケート結果から今回の目的は概ね達成できたと考えております。「課題」としては、発話量をより一層ふやし、英語を用いて話す力を向上させるレスンプログラムとなるよう改善を図る必要があると考えております。次年度の実施に向けて、ただいまこのあたりについて検討しているところでございます。

アンケートの結果につきましては、3、4ページにございますので参考にさせていただけたらと思います。

以上でございます。

○教育長 それではイングリッシュ・キャンプについて、何かご質問等ございますでしょうか。  
天宮委員。

○天宮委員 次の海外派遣と同じなのですから、48名の審査を行ったということなのですが、参加を希望する生徒というのは、大雑把でいいのですけれども、倍だったり、3倍だったりとか、そういう感覚的にはどんなものですか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 60人ぐらいでございます。ちなみに海外派遣が先にありまして、そこで行けなかった子たちもこちらのほうに参加するというような形で、本当にやる気のある子がこちらにも参加しているという形になっています。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

塚本委員。

○塚本委員 今、天宮委員から、私も伺いたかった点をご指摘いただいたのですが、そのトータル60名近くを海外派遣と振り分けたと。振り分けという言葉は穏当ではないのですが、その家庭的な協力、保護者の方の背景というのか、意識が高い保護者がもちろん子どもさんを参加させたいというはあるのでしょうか、いわゆる教育の機会均等という部分で、私、もっと懸念したのは、100ぐらを超えた中での48名になってしまったというイメージがあったのですが、それは若干安心したのです。ある程度、客体がふえた中でニーズがあればもうちょっとふやせる、今後の展開としてですね。大変なことだとは思いますが、さらに48名、1、2年生24、24ではなくて、そういう機会が得られればいいかなという感想です。実態は今60人ぐらいの応募の中で、次に出ています海外派遣事業という部分で、ある程度ニーズに応えた結果だと思うのですが、今後の展開として機会均等をふやしていただければいいかなと思うのですが、何かお考えがあれば。

○教育長 ふやすといっても、今、申込が60なら、100人にふやしてもふえないだろうという、その辺どうですかということ。

大里委員。

○大里委員 加えさせてもらっていいですか。今、1泊2日で実施されているのですが、それもちよっと短いかなという気がしますので、そこも今後日程を延ばすということも含めて。

○教育長 延ばせばふえるのではないかと。

○大里委員 短くてもったいないので、もう1日ぐらいあるといいのかなというふうに思いました。

○教育長 あわせて二つありましたけれども、指導室長、お願いします。

○指導室長 できるだけ子どもをたくさん連れていきたいということはおもなことでございますので、ぜひ前向きに検討をしていきたいと思っております。

それから、今、おっしゃられたように1泊ということで、移動時間がありますので、1日目は行くと昼過ぎてしまって、1日経つともうお昼になってしまってすぐ帰る。そのあたりで深まりが足りない。それから発話量がどうしてもそれほど伸びないという現状もございますので、そのあたりにつきましても充実できるように今後検討したいと考えております。

○教育長 よろしいですか。

それでは報告事項4について終わります。

続きまして報告事項5「平成30年度葛飾区中学生海外派遣の実施結果について」お願いします。

指導室長。

○指導室長 「平成30年度葛飾区中学生海外派遣の実施結果について」説明をいたします。本事業は「かつしかグローバル人材育成事業」の一環として、「英語によるコミュニケーション能力」や、多様な考えを持つ他者と協調して課題を解決していく能力である「21世紀型能力」の育成を図ることを目的としております。

本区で参加を希望する中学校2年生のうち、校長からの推薦を受け、教育委員会事務局において面接審査を行い決定した48名が参加をいたしました。生徒の派遣先はオーストラリアのクイーンズランド州で、派遣校はCaloundra City Private School、もう一つがMueller Collegeの2校でございます。派遣期間は平成30年8月18日土曜日から25日土曜日までの6泊8日で行いました。引率者は区内中学校教員等6名で、校長が団長を務めまして1名、中学校の英語教員が2名、生活指導担当教員2名、指導主事1名となっております。

「主な実施内容」としましては、事前学習会を5月から7月の葛飾教育の日の午後、土曜日の午後でございます。それから夏季休業中の3回の計6回で実施いたしました。なお、第5回では結団式を行いまして区長及び教育長より励ましの言葉をいただきました。事前学習の第1回から第6回までの学習内容につきましては、1ページ下段から2ページをごらんいただければと思います。

事前学習における英語学習につきましては、アルバムを使って自己紹介やホームステイ先での会話、それから折り紙の折り方を伝える会話など、現地での実践を意識して構成をいたしました。またオーストラリアの歌を英語で練習いたしました。

派遣先での体験については2ページをごらんください。8月18日の出発から8月25日までの行程や体験をした内容が示されてございます。生徒は各ホームステイ先から車で送ってもらいCaloundra City Private SchoolまたはMueller Collegeへ登校し、英語レッスンやバディを組んだ生徒の授業と一緒に参加しました。7日目の8月24日には在ブリスベン日本国総領事館を訪問したり、現地で活躍する日本人の2名

の方からお話を伺ったりしました。生徒からも積極的に質問が出て、よい交流の機会となりました。

事後学習会及び解散式は9月8日土曜日に実施いたしました。現地で学んだことを各班がまとめ保護者の方々に発表いたしました。

生徒が体験したことをまとめ各学校で報告会を行います。報告書を作成して配付し区内全校へ還元をしたいと考えております。

また、海外派遣に参加した生徒へのアンケートを実施いたしました。そのアンケート結果から、派遣後に海外の方とのコミュニケーションや英語を学ぶ意欲、積極性などがよりよく変わったと回答した生徒が多く、体験を通して自分の成長を感じ、自信となっていることが成果としてあらわれております。詳細は5ページから7ページの別紙「中学生の海外派遣事業実施後のアンケート調査結果について」をごらんいただけたらと思います。

派遣前の運営委員会では事前学習会における学習内容や指導方法等について検討しまして、引率者が共通理解のもと指導を行ったため、各回の目的や目標が明確になり、指導の充実を図ることができました。また、派遣中の生徒の様子について、教育委員会、引率者や現地スタッフ、保護者、ホストファミリーと情報共有を図ることができました。体調不良や慣れない食事への対応等、連携して迅速に対応することができました。

今後は、事前学習会における英会話学習の機会をふやしたり、現地での生活指導を事前に行ったりする必要があるので、事前学習会の回数も検討してまいります。また事前学習会の日程について、部活動の大会やさまざまなコンクールなどと重ならないように次年度に向けて日程の調整を図ってまいります。それから各学校での発表につきましては、今後学校で発表してまいります。かなり子どもたちは頑張っており、教員の指導を受けて素晴らしい発表ができてきているという報告を2校ほど伺っております。

以上でございます。

**○教育長** それでは、何かただいまの報告について質問等ありますでしょうか。

天宮委員。

**○天宮委員** 先ほどと同じようなことですが、これは本当に素晴らしいプログラムですが、これこそ応募者殺到じゃないですか。

**○教育長** 指導室長。

**○指導室長** こちらは応募者が殺到しております。140とか、倍率はすごいことになってございます。

以上です。

**○教育長** そのほかいかがでしょうか。

日高委員。



○日高委員 海外派遣ということで、子どもたちにとっては海外に行って宿泊をして、そしてホームステイもしてという経験ですから、新たな経験をして非常に成長するのでしょうか。その結果のことは5ページの調査結果にも出ているのです。何とその割合は100%です。これ以上ないですね。101%というのはないわけですから。これはすばらしいなと思います。子どもたちのここでの経験や体験が実に功を奏したものであったということであろうと思いますし、今後続けていくという価値観は非常に高いなと思います。ただ、課題にも一つ出ていますけれども、休業中のもう少し打ち合わせの機会とか英会話の学習の機会をふやしたりするといったのではないかなとなっていますので、これは一つの課題として、もう一度ふやしてやればもっと楽にあるいは成果を挙げられるのかどうか。このあたりをご検討いただければありがたいなと思います。

以上です。

○教育長 感想ということで。

そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

では報告事項5については終わります。

報告事項6「平成30年度葛飾区中学校総合体育大会の実施結果について」をお願いします。

指導室長。

○指導室長 本年度も5月27日から7月8日までの期間で中学校総合体育大会が開催されました。その実施結果についてご報告いたします。

表がございませうけれども、バレーボールでは6月17日、23日、24日の3日間で、男子は5校が出場しまして、優勝が金町中学校。女子は11校が出場しまして、優勝が共栄学園中学校となっております。そのほか軟式野球、バスケットボール等、以下続いておりますので、ごらんいただけたらと思っております。なお、ここに載せてございますのは全部団体競技ということでございます。

以上でございます。

○教育長 ただいまの報告について、何かご質問等ございますか。

塚本委員。

○塚本委員 今、ご報告いただきました。特に女子のほうは全国的に名を馳せている共栄学園なり修徳なりというのが上位をとってしまうのは致し方ないのかなとは思いますが、その反面、男子のほうでは幾つかの学校がかなり頑張っていて、各種目で成果を挙げている部分は非常に頼もしく思いますし、次の陸上競技大会の実施結果の中でも、多分学校が落ち着いているような背景がこの成績からもうかがいとれましたので、答えではなくて感想を持ちました。公立の学校はすごく頑張っていて、熱心な指導の結果がここに競技で出ているのだなというのを思いました。

以上です。

○**教育長** そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは報告事項6を終わります。

引き続きまして、報告事項7「平成30年度中学校連合陸上競技大会の実施結果について」をお願いします。

指導室長。

○**指導室長** 本年度も9月25日に中学校連合陸上競技大会が総合スポーツセンター陸上競技場で開催されました。全中学校24校、男子は454名、女子は413名、合計867名の生徒が参加いたしました。実施結果は資料のとおりでございます。雨の降る場面もありまして、決勝レースのみの短縮プログラムということで実施いたしましたけれども、今年度も全ての種目を無事に終えることができました。ありがとうございました。

本大会は学校対抗形式で、各種目の1位が8点、2位が7点、8位が1点と点をつけて優勝を争う形式になっております。男子優勝は立石中学校、女子優勝は葛美中学校で、男女の得点を合計しての総合優勝は立石中学校で、昨年度に続いての優勝となりました。また、各種目で接戦が見られ、五つの大会新記録が出ました。午後は雨がかなり降ってまいりましたが、生徒たちは自分の力を十分に発揮いたしました。それから開会式、閉会式、競技中のマナーについても大変よく、充実した大会となったと思っております。

以上でございます。

○**教育長** ただいまの報告について、何かご質問等ございますでしょうか。

塚本委員。

○**塚本委員** 今、指導室長からのご報告がございました。ことしはこの夏場から今に至るまで非常に不順な天候でございます。その中で挙行された。ただ惜しむらくは、そういったいきなり決勝レースになってしまったという部分で、これだけ大会記録が出ておりますので、準決勝、決勝というトライがありますともうちょっとまた伸びたのかなと。せっかくいいトラックに恵まれた環境ですから、それだけが残念だなと思いましたがけれども、無事に終了し、とにかく感謝申し上げたいと思います。

以上です。

○**教育長** そのほかいかがでしょうか。

砲丸投げなのですけども、女子のほうの方が飛ばしているのですけど、玉の重さが違うのですか。

指導室長。

○**指導室長** これは若干違いまして、男子のほうの方が重くなっております。細かいところまでわかりませんが、女子のほうの方が軽いです。

○**天宮委員** よかったです。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは報告事項7を終わります。

続きまして報告事項8「かつしかスポーツフェスティバル2018の実施結果について」お願いします。

生涯スポーツ課長。

○生涯スポーツ課長 それでは「かつしかスポーツフェスティバル2018の実施結果について」ご報告をさせていただきます。

まずは、当日、教育委員の皆様にご参加いただきまして、まことにありがとうございました。

「実施日時」につきましては平成30年10月8日月曜日、体育の日でございまして、午前9時30分から午後9時まで行いました。「会場」につきましては、奥戸総合スポーツセンター陸上競技場・体育館ほかを使用して行っております。当日、朝雨が降って準備等でちょっと不安な部分もあったのですが、当日の天候は曇りでございました。「参加人数」につきましては延べになりますが、4万306人で、前年度と比べると微増の状況になってございます。各会場での参加人数につきましては、表に記載のとおりでございます。

「地区別対抗競技結果」につきましては、総合優勝が新宿地区、準優勝が奥戸地区、3位が亀有地区となっております。また「教護・迷子件数」でございしますが、救護が15件、迷子が3件でございました。

「フードコートの出店」でございしますが、障害者福祉施設、東京聖栄大学等々、全部で30店舗の出店をいただいております。

報告は以上になります。よろしく願いいたします。

○教育長 ただいまの報告について、何かご質問等ございますでしょうか。

大里委員。

○大里委員 毎年非常に盛り上がってございまして、いいなと思います。そして、地区別対抗競技では青少年育成地区委員会の方々、それから参加している児童の小学校の校長先生初め先生方がたくさん来ていただいております。本当にありがたいなと思います。

それで、救護が15件なのですが、この内容といいますか内訳といいますか、大きなけがとかはなかったのでしょうか。そのあたりをいただければ。

○教育長 生涯スポーツ課長。

○生涯スポーツ課長 15件の内訳につきましては、すり傷、捻挫等が大半ではございましたが、親子リレーでお父さんが転倒して、初め救護に来たときは鼻を打ったということでお見えになられたのですが、その後、肩のほうを骨折していたということがわかった事例が1件ありました。また、体育館のブースで、たしかこれは自衛隊のブースのところだったと思うのですが、小さなお子さんがふざけて遊んでいて、手すりのようなところに顔をぶつけてまぶたを切って

数針縫ったというけがもございました。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

天宮委員。

○天宮委員 毎年参加させてもらって、生涯スポーツ課はイベントが上手だなというのを感じました。生涯スポーツ課に限らず、葛飾区の職員、いろいろな課の方とイベントをやっていると、非常にうまくまとめて人も呼んでくれるというので、ぜひこれからも、教育委員会だけでなく、葛飾区のイベントを盛り上げていただけたらと思います。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、報告事項を終了いたします。

ここで何か、そのほかでご意見・ご質問等がありましたらお願いします。そのほかで特にありませんか。

それでは特にないようですので、これもちまして平成30年教育委員会第9回臨時会を閉会といたします。ありがとうございました。